

## 令和元年度 第1回羽曳野市立図書館協議会会議録（要録）

日 時： 令和元年6月6日(木) 午後1時00分～午後2時45分

場 所： LIC はびきの 教育研究所会議室

出席者：(委員) 脇谷委員、菊川委員、平井委員、渡辺委員、上野委員、小澤委員、中平委員  
河津委員、瀬戸口委員

(教育委員会) 高崎教育長、清水教育次長兼生涯学習室長

(事務局) 細井課長事務取扱参事、奥野館長、岩佐課長補佐、江夏課長補佐、安東

欠席者： 菅谷委員

傍聴者： 1名

### ●委嘱状交付

### ●開会

教育長挨拶

事務局より、議事録の要録をWEB及び中央図書館で紙ベースで公開することを報告

協議会委員の紹介

(教育長 公務のため退席)

事務局職員の紹介

協議会に関する条例規則等の説明

### ●議事

会長・副会長の選出

委員了解のもと事務局案に基づき、会長に上野委員、副会長に小澤委員を全会一致で選出

上野会長挨拶、小澤副会長挨拶

議題 平成30年度事業報告について

事務局：(『平成30年度図書館業務活動報告書』P.1により説明)

委員：利用状況については微減一少し落ちているようだ。子ども(へのサービス)も大事だが羽曳野市の高齢者の利用状況はどうか。これからは高齢者サービスが非常に重要になると思われるがどのように考えているか。高齢になると、足の便がないと図書館に行けないということを他所で聞いた。

事務局：数値は今ないが、年齢別の分析は必要だと考える。数字にかかわらず高齢者の利用はあり、ニーズもあると思われる。居場所としての提供の仕方もある。十分に考えてやっていきたい。

委員：昨年度のこの場でも、交通の便が悪くて高齢者が行きたくても行けないという声が出ていた。館内のことだけでなく市民の動きをサポートする取り組みもしていただけるとありがたいと思う。年齢別登録状況があるが、中高生にあたる13歳から20歳くらいの数値が出ている。実際に図書館に足を運ぶ中高生の数値も出していただけるとありがたいと思った。

委員：年齢別登録状況を見ると、いわゆる働き盛りの男性登録者が女性に比べて少ない。半分以上になっている。羽曳野市の図書館の課題だと思うが、蔵書構成の見直しであるとか、働く男性をひきつける取り組みもぜひ意識してほしい。

## 議題 第2次子ども読書活動推進計画の進捗状況について

事務局：(資料により説明)

委員：中高生がなかなか伸びない。達成率を見ても後退しており、要因をどう考えているか。団体貸出で留守家庭児童会への貸出が3回から2回に減少した理由は。

事務局：中学校のことは図書館では推測になるが、学校司書がいるところは公共図書館との貸出実績は上がっている。司書が異動になると元に戻るという状況。中学校の司書配置は現在1校だけで、そのあたりが原因ではないか。

委員：現在司書が配置されている中学校はどこか。

事務局：はびきの埴生学園の後期課程です。

委員：小学校と中学校を受け持っているのか。

委員：いいえ、2名配置になっている。それに伴い、校区ごとの中学校支援体制を作っていこうという方向になっている。中学校区の小学校の司書の中で窓口を決め、少しずつ連携できる部分を増やしていこうとしている。中学校での図書館利用が年か学期に1回取れるかどうかの現状で、司書がない図書館の啓発を先生がされるのは厳しい状況。司書が一度入った図書館は分類などが整備されたり使いやすくなっており、それを維持することに先生方はがんばっていただいている。それ以上の啓発まで手がまわっていない。

委員：2017年に子どもが60冊借りる数値目標は(根拠など)どうやって設定されたのか。

事務局：2012年の計画策定時の調査で大きな数値が出ており、これを維持したいとして設定したもの。他市や全国平均からのものではなく、羽曳野の実体から増やそうとした。全国平均より多いのではないかと思う。留守家庭児童会の質問について、セットの配達を担当課にお願いしているが、業務的に厳しく、年3回から2回にしてほしいとの話があり、現在年2回となっている。が、その分1回あたりの冊数を増やしている。

委員：今年、文庫連絡会で金原瑞人さんの講演会を企画していて、これに関連してヤングアダルトコーナーでも各館で作っていただいているかと思う。陵南の森のティーンズコーナーはとても目に付きやすくわかりやすい。中高生がこの1冊に出会うことで何かが変わるかもしれないという本が数多くある。セット貸出をヤングアダルトの本として中学校に届けるということはできないか。

事務局：現在もたけのこくんブックボックスの案内を中学校に送っているが反響がない。PRのしかたを変えてみたらいいかとも思う。こちらが届けた本を管理することだけでも先生方の負担になっているようだ。中学生向けの本はたくさんあるので使っていただけたらと思っている。

委員：中学校区を担当されている小学校司書が司書会からの要望としてたけのこくんブックボックスの活用をつないでもらう手立てを考えては。

委員：(小学校の司書が)中学校に支援しに行くという体制ではなく、夏休みなど中学校の先生から依頼があったときに関わっていくというもの。曜日を決めて試みたことがあるが、小学校で閉館の時間帯ができてしまい、小学校の子どもたちが(図書館に)行きたいときに行けないというのはどうかとの声が先生からも出た。小学校司書は小学校での活動を最優先したうえでの支援を模索していて、連携の仕方はまだまだ検討が必要かと思う。

委員：中学校では、図書館を管理できないから開けられない。私立の学校で図書館をやめたというニュースを見た。フロアや廊下に図書を置いて自由に手に取れるようなもの。古市駅・高鷲駅のステーションライブラリーを見て、通勤・通学途上で自由に手に取れるのはいいのではないか

と思った。

委員 : 一見、本を置いていたらいいように思うが、駅などに本を置いても(案内する)人がいないと、結局あまり動いていない。子どもにとって活字を読むのはしんどいこと。スマホではゲームもできるし検索もできる。そんな状況で本だけ置いても実際の読書につながっていないことが多いと思う。小中学生に本を置いておいたら出る、そういうものではない。読書は本を案内できる人がいて感想を話し合ったりすることが必要で、そういう意味で学校司書を置くのが基本。中学生には読むことを勧めたり具体的に話したりする機会をつくらないと実際の読書には結びつかないと思う。学校司書がいないところの貸出はどうなっているか?

委員 : 図書委員会の先生が図書委員の生徒を使って昼休みに週何回か開館して貸出すると思う。

委員 : 中高生は参加型でないと(利用を)伸ばしていけない。豊中で読書フォーラムとして、ビブリオバトルと調べ学習の発表をしていたが、とてもレベルが高かった。羽曳野では調べ学習をやっているが、発表の場を設けて中学生の父兄が見てもらい、知ってもらいという場があれば。本だけ置いていればどうにかなるという時代ではない。中高生の読書に取り組むならそういうしかけや人が絶対不可欠。ビブリオバトルはゲーム感覚で参加できる。学校の先生の理解がないとできないと思うが、巻き込んで参加型の取り組みをしないとこの数字は上がらない。他の自治体では読書フォーラムを結構やっている。羽曳野は調べ学習に以前から取り組んでいるので、取り組んだ生徒が発表できる場を作ってあげればどうかと思う。

委員 : 文庫連絡会でも中学校への司書配置を何年も前から要望しているが、中学校の先生を巻き込んで、子どもが参加できること、そこにサポートする人がいてくれることが大事ですね。そういうことも図書館から働きかけがあるとありがたい。

委員 : 留守家庭児童会にボランティアは行っておられるか? 子どもたちに本を楽しんでもらったりイベントをしたりなどで、この先可能性があるのではないか。ボランティアの活動を広げてもらえたら変わるのかなと思う。

委員 : 夏休みに、依頼があった学校の学童保育におはなし会を届けに行ったことがある。まず指導員の先生がおはなしを聴く機会がなかったのか、こういうことをされているのか、とびっくりされた。

委員 : だいたい現状がわかった。現状認識をしっかりとっておかないと新しい計画は作れない。現状を出してもらってよかったと思う。

事務局 : (今後) 学校教育課や留守家庭児童会担当の社会教育課、こども課にも委員に入ってもらって、できていないところ・できるところを見極めてやっていきたい。

### 議題 第3次子ども読書活動推進計画について

事務局 : (資料により説明)

会長 : 図書館協議会から子ども読書活動推進委員を1名選出したい。

協議の結果、菅谷委員を子ども読書活動推進委員に選出した。

会長 : ほかに何か発言があればお願いします。

委員 : 市民からの寄贈図書を活用されているが、今後も続けるか。

事務局 : 先ほど話のあったステーションライブラリーの活用も含めて寄贈はお受けしています。

委員 : 幼稚園では絵本に親しむ時間をしっかり取りたい。

- 委員 : 大人を対象に活動しているが、子どもが読書好きになるには、そばに本があることが一番だと言われたことがある。子どもたちのためにできることをできたらと思う。
- 委員 : 朝の読書の取り組みで、学校で本を読む習慣は羽曳野の子どもたちはできている。これを家で引き継いでできるようにウチドクを実施して数年になる。ウチドクで本を通してのお家の人とのつながりを作っていくという啓発ができていると思う。小学校でも図書館を使う授業が減っている状況の中で図書館を使って学習すると子どもたちの豊かな学びにつながっていくことは先生方もわかるが、その時間を捻出できないという現状。さらに中学校ではどうしようか常に悩んでいてむずかしいところ。
- 委員 : 中学校の先生の働き方を少しでも軽減するためにも中学校の司書配置は大事だと思う。
- 委員 : 学校司書の中でも中学校での勤務の経験者は増えてきているが、中学校の先生とのかかわりを作ってからでないと本を使ってみようかとはならない。配置されてすぐは何をする人なのか、図書館の使い方は何なのかという状態。3年経って実績ができて先生がようやく図書館を使ってみようかという時期に司書の配置期間が終了となる。
- 委員 : 小学校は司書を配置していただいているので一日開館されていて休み時間にも返しにいける。週に一度でも授業の中で子どもたちを連れて行って本を読んだり借りたりができているのであれだけの数字になっている。朝読書や持ち帰りの読書があるのであれだけの成果が出ている。中学校は司書教諭の先生はいるが、おそらく輪番で昼休みに週何回か開けていて日常的には閉まっていると思われるのでなかなか数字が伸びない。どなたかがやっていただけるなら調べ学習の回数も増やすことができ content についても高いレベルのことができるのではと思う。全校配置は難しいかもしれないが中学校でも何か取り組みをしなければと考えている。中学1年生は昨年まで小学生、それまで何十冊も借りていた子がぱたっと借りなくなるのは非常にさびしいこと。今後の課題だと思う。
- 委員 : 羽曳野の学校司書配置は、羽曳野の財産だ。ところが中学校に行った途端激減するのはなんとか考えてほしい。なんとか中学校でも、と考えてほしいと思う。
- 委員 : 小学校は司書がいるからこれだけ読めているという実績があるのだから中学校でも活かしてほしい。実績があるからこそ中学校にも司書を配置してほしい。働き盛りの男性はなかなか返す時間がない。駅に返却ボックスを設けているところがある。返却できないから借りにくいということもある。テレビで健康寿命が高いところは図書館の利用が多かったということが出ていた。シニア世代の興味関心を惹いて図書館の中を歩いて健康寿命を延ばせるというデータもある。中学校・働き盛りの男性・シニア世代への働きかけを今後どうするかが課題だとわかった。
- 会長 : そういった人たちがより使いやすい図書館を目指して改善し、より広く市民が使える図書館にしてもらえるとありがたい。(委員も) それぞれの立場でやれることを考えたりしながら、次の会もよろしくをお願いします。

## ●閉会

教育次長挨拶